

女性リズムの転換期に。体のコアを整えるカルシウムサプリメント 『アクティベスト コア Wカルシウム&プロテオグリカン』 発売

株式会社ポーラ（本社：東京都品川区、社長：及川美紀）は、カルシウムやビタミンD、プロテオグリカンの他、ポーラオリジナル「コアベースエキス」など、体のコアを整える栄養素を複数配合したサプリメント「アクティベスト コア Wカルシウム&プロテオグリカン」（120粒（30日分）¥6,480 <税抜 ¥6,000>、120粒×3袋（90日分）¥17,280 <税抜 ¥16,000>）を2024年9月1日に発売します。

女性リズムの転換期に不足しがちなカルシウムの補給に。吸収力にこだわったホタテ貝カルシウムやマルトビオン酸カルシウムのダブルカルシウムと、カルシウムの吸収を助ける⁽¹⁾ ビタミンDも配合しています。さらに、新たに開発した、マリアアザミとブラックジンジャーのオリジナル複合エキス「コアベースエキス」や、プロテオグリカンなど注目の栄養素も多数配合しています。体のコアを整え、顔つきも姿勢もスツとした、美しくアクティブな人を目指すカルシウムサプリです。

全国のポーラ ビューティーディレクター、コスメ&エステショップ「ポーラ ザ ビューティー」約470店舗・旗艦店「ポーラ ギンザ」・全国有名百貨店等ポーラコーナー83店舗を含む約2,700店（2023年12月末時点）、ポーラ公式オンラインストア（<https://www.pola.co.jp/ec/>）、日本空港免税店、海外でのお取り扱いはありません。



2024年9月1日発売

アクティベスト コア Wカルシウム&プロテオグリカン

120粒（約30日分） ¥6,480 <税抜 ¥6,000>

120粒×3袋（約90日分） ¥17,280 <税抜 ¥16,000>

【特許取得健康食品】

配合成分に関する特許（特許第6883347号）

【栄養機能食品】カルシウム・ビタミンD

<お召し上がり方>

1日4粒を目安に、かまずに水などでお召し上がりください。

<栄養成分表示> 4粒(1,680mg)当たり

エネルギー	3.2kcal
たんぱく質	0.2g
脂質	0.03g
炭水化物	0.6g
食塩相当量	0.024g
カルシウム	319mg (47%)
ビタミンD	1.66~3.4 μg(30~62%)
ビタミンK	3~16 μg

プロテオグリカン*	5mg
マリアアザミエキス*	67mg
ブラックジンジャーエキス*	5mg
N-アセチルグルコサミン*	300mg
コンドロイチン硫酸*	30mg
コラーゲン*	50mg

() 内は、栄養素等表示基準値(18歳以上、基準熱量2,200kcal) に占める割合。

*は全て配合量の値

アプローチ① 吸収力にこだわったダブルカルシウム

マグネシウムなども含む天然のミネラル源、国産のホタテ貝殻から抽出した「ホタテ貝カルシウム」と、ハチミツに含まれる成分の一つであるオリゴ糖のマルトビオン酸と炭酸カルシウムより作られるマルトビオン酸カルシウムの、2種のカルシウムをダブルで配合。さらに、カルシウムの吸収を助けるビタミンDも配合しています。



ホタテ貝殻

*写真はイメージです

アプローチ② ポーラオリジナルエキス「コアベースエキス」

体のコアにアプローチするポーラオリジナルエキス「コアベースエキス」を新開発。2000年以上前からヨーロッパで使用されてきたマリアアザミ（洋名：ミルクシスル）のエキスと相性のいいブラックジンジャーのエキスを配合したオリジナル処方設計です。



マリアアザミ



ブラックジンジャー

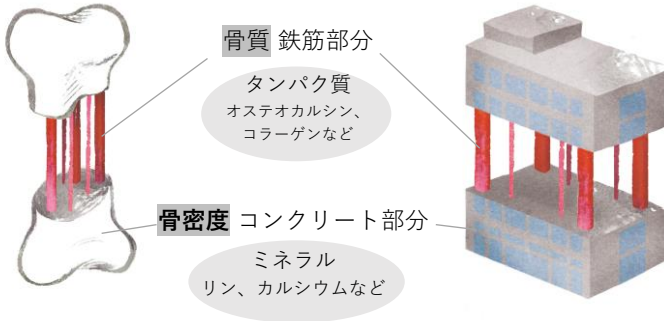
*写真はイメージです

アプローチ③ プロテオグリカン他、美容成分を多数配合

サケ由来美容成分「プロテオグリカン」の他、「コンドロイチン」「グルコサミン」「コラーゲン」「亜鉛」「鉄」「ビタミンB6」「ビタミンB12」「ビタミンK」など、健やかな体づくりをサポートする成分をバランスよく配合しています。

骨ヤセが体や肌の変化、不調の原因に

骨密度と骨質からなる骨強度が下がり、骨ヤセが進むと、骨によって支えられている全身に影響があり、関節の動かしづらさや痛み、姿勢維持力の低下、顔や体の皮膚のたるみなど、見た目にも変化が表れます。

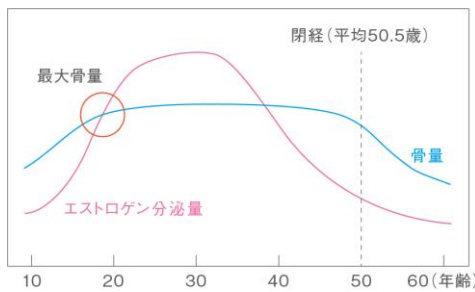


骨密度 + 骨質 = 骨強度

骨を鉄筋コンクリートの建物に例えると、骨密度にかかわるカルシウムはコンクリートにあたり、硬さをつくります。骨質にかかわるタンパク質（オステオカルシン・コラーゲンなど）は鉄筋にあたり、しなやかさをつくります。コンクリートの量（骨密度）だけを増やしても建物は丈夫にならず、鉄筋（骨質）で強化することで頑丈になります⁽²⁾。

また、骨を守る女性ホルモンが閉経後減少することで、骨形成が追い付かず、骨密度が急激に減少することが知られています。さらに骨質は加齢や生活習慣によって悪化するため、食事や運動でのケアが必要です^(3,4)。

骨量※と女性ホルモン分泌量の変化



出典：骨量は(3)より、女性ホルモン（エストロゲン）は(4)より一部改変

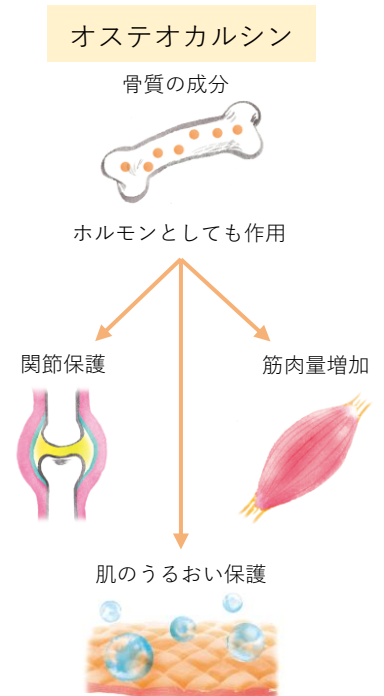
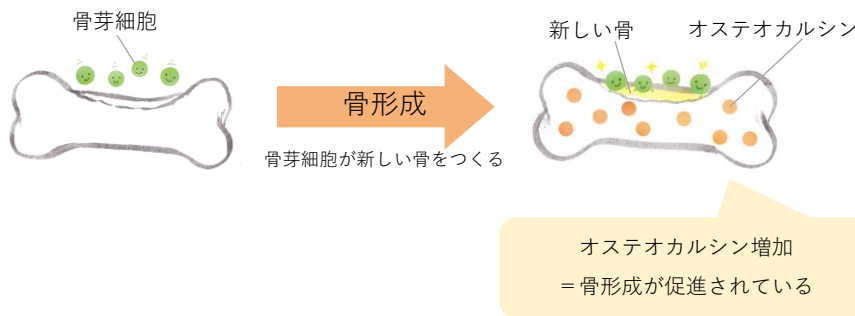
※骨密度 = 骨量 (g) / 面積 (cm²)

骨質の強化に役立つ“オステオカルシン”

オステオカルシンとは

タンパク質の一種で、コラーゲンなどと共に骨の支柱ともいえる骨質の成分。骨の原型ともいえる骨芽細胞が骨に変化する過程で一緒に生成され、骨質を高め骨形成が促進されているかを計るバロメーター。

さらにこのオステオカルシンは、骨内のみならず血中に移行することで全身の関節や筋肉、肌などでホルモンとして働く機能をもつことも報告されており⁽⁵⁻⁸⁾、別名“若返りホルモン”とも呼ばれています。



- (1) Christakos, Sylvia, et al. *Molecular and cellular endocrinology* 347.1-2 (2011): 25-29.
- (2) 骨粗鬆症治療の予防と治療ガイドライン作成委員会. 骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン2015年版. 東京: ライフサイエンス出版; 2015.
- (3) 鈴木隆雄. 日臨床 2004 ; 62 (増2) : 225-32
- (4) 厚生労働省. 女性の生涯健康手帳 (2024年6月11日参照) 23-24 <https://www.mhlw.go.jp/shingi/2008/06/dl/s0613-8e.pdf>
- (5) Mizokami, Akiko, et al. *PLoS one* 8.2 (2013): e57375.
- (6) Chen, Jian, et al. *Cell Death & Disease* 9.2 (2018): 212.
- (7) Moser, Sarah C., and Bram CJ van der Eerden. *Frontiers in endocrinology* 9 (2019): 424282.
- (8) ポーラ化成工業リリース 「宇宙に着想し、肌と骨の知られざる関係を発見」 https://www.pola-rm.co.jp/pdf/release_20230828_1.pdf